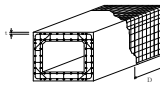
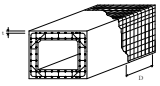
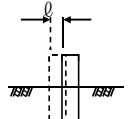
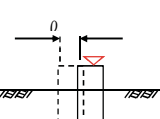
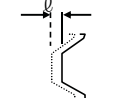
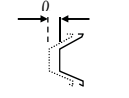
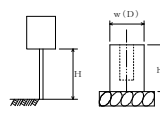
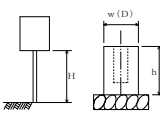
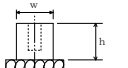
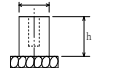
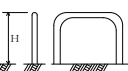
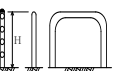


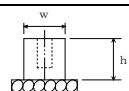
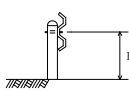
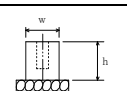
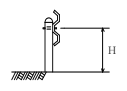
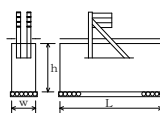
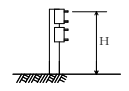
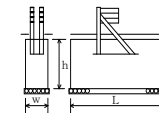
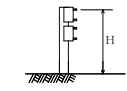
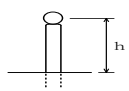
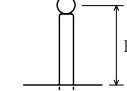
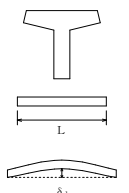
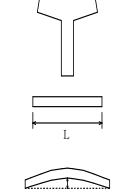
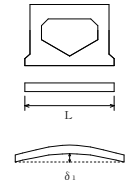
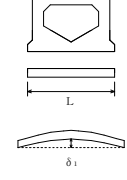
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度										平成23年度																									
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要														
1 共通編	3 無筋、鉄筋コンクリート	7 鉄筋工	4		組立て	平均間隔 d	± φ	$d = \frac{D}{n-1}$			c	3 無筋、鉄筋コンクリート	7 鉄筋工	4		組立て	平均間隔 d	± φ	$d = \frac{D}{n-1}$																
						かぶり t	± φかつ 最小かぶり 以上	D：n本間の延長 n：10本程度とする φ：鉄筋径									かぶり t	± φかつ 最小かぶり 以上	D：n本間の延長 n：10本程度とする φ：鉄筋径																
								工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書（構造性能照査編 9.2）参照											工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶりは、 コンクリート標準示方書（設計編13.2） 参照。但し、 道路橋仕方書の適用を受ける橋 については、 道路橋仕方書（Ⅲコンクリート橋編 6.6） による。																
								注1) 重要構造物 かつ主鉄筋について適用する。 注2) 橋梁コンクリート床版桁（PC橋含む）の鉄筋については、第3編3－4－12床版・横組工を適用する。 注3) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領（案）」を適用する。											注1) 重要構造物 かつ主鉄筋について適用する。 注2) 橋梁コンクリート床版桁（PC橋含む）の鉄筋については、第3編 2－18－2床版工 を適用する。 注3) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領（案）」も 併せて 適用する。																
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	4		矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 （鋼矢板） （軽量鋼矢板） （コンクリート矢板） （広幅鋼矢板） （可とう鋼矢板）	基 準 高 ▽	±50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所、延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	4		矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 （鋼矢板） （軽量鋼矢板） （コンクリート矢板） （広幅鋼矢板） （可とう鋼矢板）	基 準 高 ▽	±50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所、延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。																
						根 入 長	設計値以上										根 入 長	設計値以上																	
						変 位 δ	100										変 位 δ	100																	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	5		縁石工 （縁石・アスカープ）	延 長 L	-200	1箇所／1施工箇所			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	5		縁石工 （縁石・アスカープ）	延 長 L	-200	1箇所／1施工箇所																
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	6		小型標識工	設 置 高 さ H	設計値以上	1箇所／1基			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	6		小型標識工	設 置 高 さ H	設計値以上	1箇所／1基																
						基礎	幅 w (D)	-30									基礎 1 基毎																		
							高さ h	-30																											
							根 入 長	設計値以上																											
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	7		防止柵工 （立入防止柵） （転落（横断）防止柵） （車止めポスト）	基礎	幅 w	-30	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1箇所測定。			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	7		防止柵工 （立入防止柵） （転落（横断）防止柵） （車止めポスト）	基礎	幅 w	-30	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1箇所測定。														
							高 さ h	-30										高 さ h	-30																
						パイプ取付高 H	+30 -20	1箇所／1施工箇所										パイプ取付高 H	+30 -20	1箇所／1施工箇所															

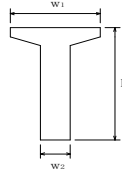
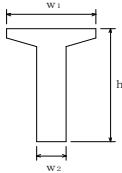
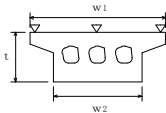
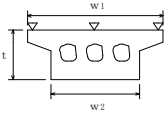
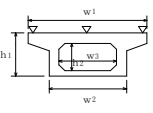
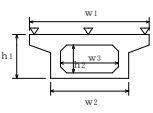
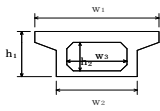
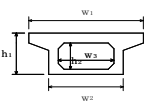
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度													平成23年度																								
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所		摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所		摘 要										
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30	1 箇所／施工延長40m 40m以下のものは、2 箇所／1 施工箇所。					3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30	1 箇所／施工延長40m 40m以下のものは、2 箇所／1 施工箇所。														
							高 さ h	-30													高 さ h	-30															
						ビーム取付高 H		+30 -20	1 箇所／1 施工箇所											ビーム取付高 H		+30 -20	1 箇所／1 施工箇所														
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	幅 w	-30	1 箇所／1 基礎毎					3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	幅 w	-30	1 箇所／1 基礎毎														
							高 さ h	-30													高 さ h	-30															
							延 長 L	-100													延 長 L	-100															
						ケーブル取付高 H		+30 -20	1 箇所／1 施工箇所											ケーブル取付高 H		+30 -20	1 箇所／1 施工箇所														
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	9		区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上		各線種毎に、1 箇所テストピースにより測定。					3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	9		区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上		各線種毎に、1 箇所テストピースにより測定。														
						幅 w	設計値以上													幅 w	設計値以上																
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30		1 箇所／10本 10本以下の場合は、2 箇所測定。					3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30		1 箇所／10本 10本以下の場合は、2 箇所測定。														
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	11		コンクリート面塗装工	塗料使 用 量		鋼道路橋塗装・防食便覧Ⅱ-74「表-Ⅱ.5.5各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量（空缶数）と、塗付作業終了時に使用量（空缶数）を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1 ロットの大きさは500㎡とする。				3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	11		コンクリート面塗装工	塗料使 用 量		鋼道路橋塗装・防食便覧Ⅱ-74「表-Ⅱ.5.5各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量（空缶数）と、塗付作業終了時に使用量（空缶数）を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1 ロットの大きさは500㎡とする。															
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	12	1	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁長 L (m)	±L／1000		桁全数について測定。橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS製品の場合は、JIS認定工場の成績表にかえることができる。JIS製品以外はJIS製品に準ずる。					3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	12	1	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁長 L (m)	±L／1000		桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。														
						断面の外形寸法		±5												断面の外形寸法		±5															
						橋 桁 の そ り δ ₁		±8												橋 桁 の そ り δ ₁		±8															
						横方向の曲がり δ ₂		±10												横方向の曲がり δ ₂		±10															
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	12	2	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁長 L (m)	±10… L ≤10m ±L /1000… L >10m		桁全数について測定。橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS製品の場合は、JIS認定工場の成績表にかえることができる。JIS製品以外はJIS製品に準ずる。					3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	12	2	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁長 L (m)	±10… L ≤10m ±L /1000… L >10m		桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。														
						断面の外形寸法		±5												断面の外形寸法		±5															
						橋 桁 の そ り δ ₁		±8												橋 桁 の そ り δ ₁		±8															
						横方向の曲がり δ ₂		±10												横方向の曲がり δ ₂		±10															

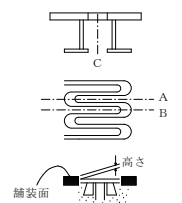
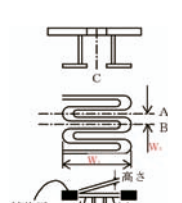
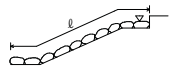
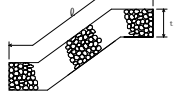
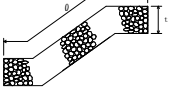
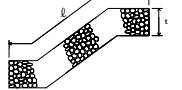
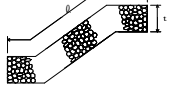
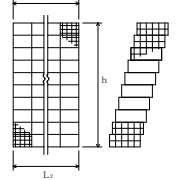
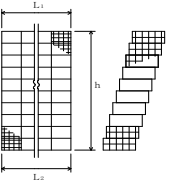
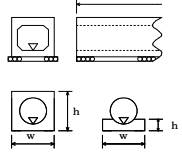
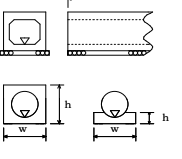
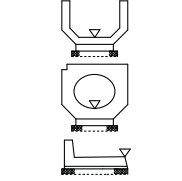
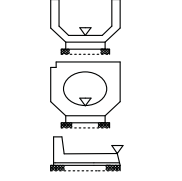
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度										平成23年度											
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	13	1	ポストテンション桁製作工	幅（上） w_1	+10 -5	桁全数について測定。横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 J I S 製品を使用する場合は J I S 認定工場の成績表にかえることができる。 ℓ ：支間長（m）			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	13	1	ポストテンション桁製作工	幅（上） w_1	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。 ℓ ：支間長（m）		
						幅（下） w_2	± 5														
						高 さ h	5														
						桁 長 ℓ 支間長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内														
						横方向最大タワミ	0.8 ℓ														
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	13	2	プレキャストセグメント製作工（購入工）	桁 長 ℓ	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	13	2	プレキャストセグメント桁製作工（購入工）	桁 長 ℓ	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		
						断面の外形寸法（mm）	—														
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	14		プレキャストセグメント主桁組立工	桁 長 ℓ 支間長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ ：支間長（m）			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	14		プレキャストセグメント主桁組立工	桁 長 ℓ 支間長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ ：支間長（m）		
						横方向最大タワミ	0.8 ℓ														
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	15		P C ホロースラブ製作工	基 準 高 ∇	± 20	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 3－4－12 床版・横組工に準ずる。 ℓ ：桁長（m）			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	15		P C ホロースラブ製作工	基 準 高 ∇	± 20	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 2－18－2 床版工に準ずる。 ℓ ：桁長（m）		
						幅 w_1, w_2	- 5 ～ + 30														
						厚 さ t	- 10 ～ + 20														
						桁 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内														
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	16	1	P C 箱桁製作工	基 準 高	± 20	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び高さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 3－4－12 床版・横組工に準ずる。 ℓ ：桁長（m）			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	16	1	P C 箱桁製作工	基 準 高 ∇	± 20	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び高さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 2－18－2 床版工に準ずる。 ℓ ：桁長（m）		
						幅（上） w_1	- 5 ～ + 30														
						幅（下） w_2	- 5 ～ + 30														
						内 空 幅 w_3	± 5														
						高 さ h_1	+10 -5														
						内空高さ h_2	+10 -5														
						桁 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内														
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	16	2	P C 押し箱桁製作工	幅（上） w_1	- 5 ～ + 30	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3 箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 3－4－12 床版・横組工に準ずる。 ℓ ：桁長（m）			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	16	2	P C 押し箱桁製作工	幅（上） w_1	- 5 ～ + 30	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3 箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 2－18－2 床版工に準ずる。 ℓ ：桁長（m）		
						幅（下） w_2	- 5 ～ + 30														
						内 空 幅 w_3	± 5														
						高 さ h_1	+10 -5														
						内空高さ h_2	+10 -5														
						桁 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内														

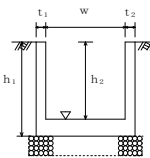
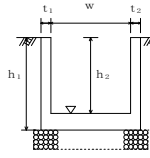
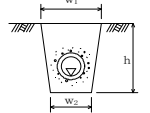
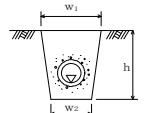
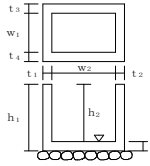
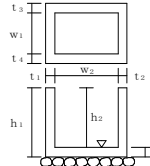
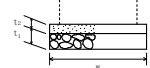
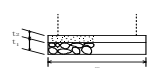
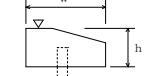
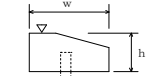
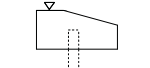
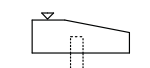
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度											平成23年度																		
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要						
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	24	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョイント)	高さ	据 付 け 高 さ	± 3	高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計3点。			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	24	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョイント)	高さ	据付け高さ	± 3	高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計3点。								
							車線方向各点誤差の相対差	3											車線方向各点誤差の相対差	3									
						表 面 の 凹 凸		3										表 面 の 凹 凸	3										
						歯型板面の歯咬み合い部の高低差		2										歯型板面の歯咬み合い部の高低差	2										
						縦 方 向 間 隔		± 2										縦方向間隔W ₁	± 2										
						横 方 向 間 隔		± 5										横方向間隔W ₂	± 5										
						仕 上 げ 高 さ		舗装面に対し0～－2										仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し0～－2										
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	26	1	多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み)	基 準 高 ▽	±500	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	26	1	多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み)	基 準 高 ▽	±500	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。										
						法 長 ℓ	-200										法 長 ℓ	-200											
						延 長 L	-200										延 長 L	-200											
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	26	2	多自然型護岸工 (かごマット)	法 長 ℓ	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	26	2	多自然型護岸工 (かごマット)	法 長 ℓ	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。										
						厚 さ t	－0.2 t										厚 さ t	－0.2 t											
						延 長 L	-200										延 長 L	-200											
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	27	1	羽口工 (じゃかご)	法長 ℓ	ℓ < 3 m	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	27	1	羽口工 (じゃかご)	法長 ℓ	ℓ < 3 m	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。								
							ℓ ≥ 3 m	-100											ℓ ≥ 3 m	-100									
						厚 さ t	-50	厚 さ t										-50											
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	27	2	羽口工 (ふとんかご、かご枠)	高 さ h	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	27	2	羽口工 (ふとんかご、かご枠)	高 さ h	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。										
						延 長 L ₁ , L ₂	-200										延 長 L ₁ , L ₂	-200											
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 プレキャストカルバート工	28		プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 プレキャストカルバート工	28		プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。										
						※幅 w	-50										※幅 w	-50											
						※高 さ h	-30										※高 さ h	-30											
						延 長 L	-200	1施工箇所毎									延 長 L	-200											
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	29	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	29	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。										
						延 長 L	-200										延 長 L	-200											
								1箇所／1施工箇所																					

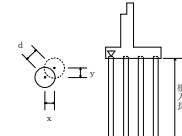
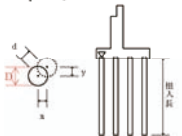
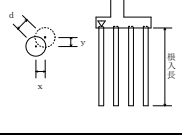
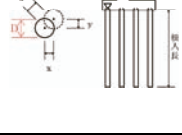
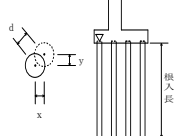
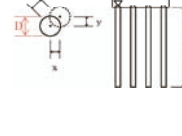
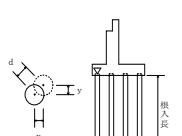
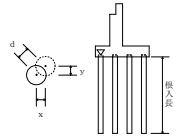
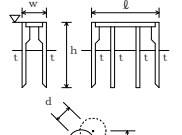
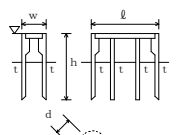
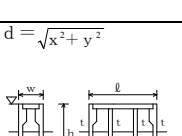
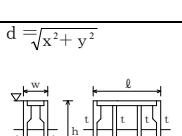
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度										平成23年度											
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	29	2	場所打水路工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	29	2	側溝工 （場所打水路工）	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚 さ t ₁ , t ₂	-20										厚 さ t ₁ , t ₂	-20			
						幅 w	-30										幅 w	-30			
						高 さ h ₁ , h ₂	-30										高 さ h ₁ , h ₂	-30			
						延 長 L	-200										1 施工箇所毎	延 長 L			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	29	3	暗渠工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。 延長40m（又は50m）以下のものは1施工につき2箇所。 （なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。）			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	29	3	側溝工 （暗渠工）	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。 延長40m（又は50m）以下のものは1施工につき2箇所。		
						幅 w ₁ , w ₂	-50										幅 w ₁ , w ₂	-50			
						深 さ h	-30										深 さ h	-30			
						延 長 L	-200										1 施工箇所毎	延 長 L			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	30		集水枳工	基 準 高 ▽	±30	1 箇所毎 ※は、現場打部分のある場合			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	30		集水枳工	基 準 高 ▽	±30	1 箇所毎 ※は、現場打部分のある場合		
						※厚さ t ₁ ～t ₅	-20										※厚さ t ₁ ～t ₅	-20			
						※幅 w ₁ , w ₂	-30										※幅 w ₁ , w ₂	-30			
						※高さ h ₁ , h ₂	-30										※高さ h ₁ , h ₂	-30			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	31		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90％以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70％以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20％を超えない。 ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。			3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	31		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90％以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70％以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20％を超えない。 ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	1		一般事項 （切込砂利） （砕石基礎工） （割ぐり石基礎工） （均しコンクリート）	幅 w	設計値以上	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	1		一般事項 （切込砂利） （砕石基礎工） （割ぐり石基礎工） （均しコンクリート）	幅 w	設計値以上	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚さ t ₁ , t ₂	-30										厚さ t ₁ , t ₂	-30			
						延 長 L	各構造物の規格値による										延 長 L	各構造物の規格値による			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3	1	基礎工（護岸） （現場打）	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3	1	基礎工（護岸） （現場打）	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						幅 w	-30										幅 w	-30			
						高 さ h	-30										高 さ h	-30			
						延 長 L	-200										延 長 L	-200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3	2	基礎工（護岸） （プレキャスト）	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3	2	基礎工（護岸） （プレキャスト）	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						延 長 L	-200										延 長 L	-200			

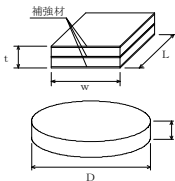
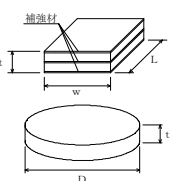
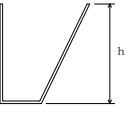
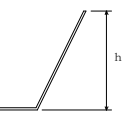
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度											平成23年度										
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4		既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4	1	既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上														
						偏 心 量 d	D/4 以内かつ100以内														
						傾 斜	1/100以内														
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4		既製杭工 (鋼管ソイルセメント杭)	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメント杭)	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上														
						偏 心 量 d	100以内														
						傾 斜	1/100以内														
						杭 径	設計値以上														
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	5		場所打杭工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	5		場所打杭工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上														
						偏 心 量 d	100以内														
						傾 斜	1/100以内														
						杭 径	(設計径 (公称径) -30) 以上														
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	6		深礎工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	6		深礎工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上														
						偏 心 量 d	150以内														
						傾 斜	1/50以内														
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	7		オープンケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	7		オープンケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						ケーソンの長さ ℓ	-50														
						ケーソンの幅 w	-50														
						ケーソンの高さ h	-100														
						ケーソンの壁厚 t	-20														
						偏 心 量 d	300以内														
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	8		ニューマチックケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	8		ニューマチックケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						ケーソンの長さ ℓ	-50														
						ケーソンの幅 w	-50														
						ケーソンの高さ h	-100														
						ケーソンの壁厚 t	-20														
						偏 心 量 d	300以内														

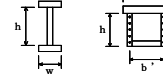
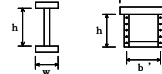
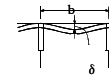
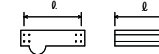
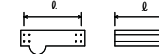
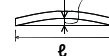
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度											平成23年度											
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	2	鋳造費 (大型ゴム支承工)	幅 w 長さ L 直径 D	w, L, D ≦500	0 ～ + 5			3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	2	鋳造費（大型ゴム支承工）	幅 w 長さ L 直径 D	w, L, D ≦500	0 ～ + 5			
							500 < w, L, D ≦1500mm	0 ～ + 1 %										500 < w, L, D ≦1500mm	0 ～ + 1 %			
							1500 < w, L, D	0 ～ +15										1500 < w, L, D	0 ～ +15			
						厚さ t	t ≦20mm	±0.5										t ≦20mm	±0.5			
							20 < t ≦160	±2.5%										20 < t ≦160	±2.5%			
							160 < t	± 4										160 < t	± 4			
						平 面 度		1									平 面 度		1			
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	3	仮設材製作工	部 材	部材長 ℓ（m）	± 3 … ℓ ≦10 ± 4 … ℓ >10	図面の寸法表示箇所で測定。		3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	3	仮設材製作工	部 材	部材長 ℓ（m）	± 3 … ℓ ≦10 ± 4 … ℓ >10	図面の寸法表示箇所で測定。		
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 共通の工種	1	4	刃口金物製作工	刃 口 高 さ h（m）	± 2 … h ≦0.5 ± 3 … 0.5 < h ≦1.0 ± 4 … 1.0 < h ≦2.0	図面の寸法表示箇所で測定。			3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	4	刃口金物製作工	刃 口 高 さ h（m）	± 2 … h ≦0.5 ± 3 … 0.5 < h ≦1.0 ± 4 … 1.0 < h ≦2.0	図面の寸法表示箇所で測定。			
							外周長 L（m）											± (10+L/10)				

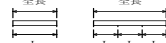
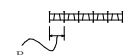
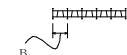
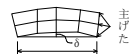
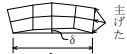
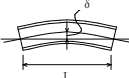
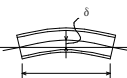
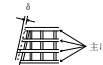
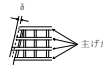
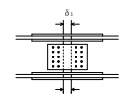
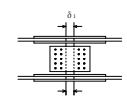
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度											平成23年度																																		
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要																						
								鋼げた等	トラス・アーチ等											鋼げた等	トラス・アーチ等																								
3	土木工事	一般施工	12	3	1	桁製作工 （仮組立による検査を実施する場合） （シミュレーション仮組立検査を行う場合）	フランジ幅 w （m） 腹板高 h （m） 腹板間隔 b'（m）	±2…… w ≤ 0.5 ±3…… 0.5 < w ≤ 1.0 ±4…… 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2)…… 2.0 < w	 I 型鋼げた  トラス弦材			3	土木工事	一般施工	12	3	1	桁製作工 （仮組立による検査を実施する場合） （シミュレーション仮組立検査を行う場合）	フランジ幅 w（m） 腹板高 h（m） 腹板間隔 b'（m）	±2…… w ≤ 0.5 ±3…… 0.5 < w ≤ 1.0 ±4…… 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2)…… 2.0 < w	 I 型鋼げた  トラス弦材																								
																								部 材 精 度	板の平面度 δ（mm）	鋼げた及びトラス等の部材の腹板	h / 250	h：腹板高（mm） b：腹板又はリップの間隔（mm） w：フランジ幅（mm）																	
																										箱げた及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b / 150																		
																									フランジの直角度 δ（mm）	w / 200	原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。																		
																								部 材 長 ℓ（m）	鋼 げた	± 3 … ℓ ≤ 10 ± 4 … ℓ > 10																			
																									ト ラ ス、アーチなど	± 2 … ℓ ≤ 10 ± 3 … ℓ > 10																			
																								圧縮材の曲がり δ（mm）	ℓ / 1000	—	主要部材全数を測定。 ℓ：部材長（mm）																		
																								※規格値の w, に代入する数値は m 単位の数値である。 ただし、「板の平面度 δ, フランジの直角度 δ, 圧縮材の曲り δ」の規格値の h, b, w, に代入する数値は mm 単位の数値とする。											※規格値の w, に代入する数値は m 単位の数値である。 ただし、「板の平面度 δ, フランジの直角度 δ, 圧縮材の曲り δ」の規格値の h, b, w, に代入する数値は mm 単位の数値とする。										

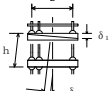
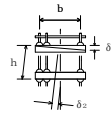
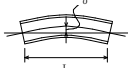
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

单位: mm

平成21年度												平成23年度																												
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要																	
								鋼げた等	トラス・アーチ等											鋼げた等	トラス・アーチ等																			
3 土木工事 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	3	1	桁製作工 （仮組立による検査を実施する場合） （シミュレーション仮組立検査を行う場合）	仮組立精度	全長、支間長 L (m)	± (10+L/10)	主げた、主構全数を測定。			※規格値のL, B, h に代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主げた、主構の鉛直度 δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。	3	土木工事 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	3	1	桁製作工 （仮組立による検査を実施する場合） （シミュレーション仮組立検査を行う場合）	仮組立精度	全長 L_1 (m) 支間長 L_2 (m)	± (10+ L_1 /10) ± (10+ L_2 /10)	主げた、主構全数を測定。			※規格値のL, B, h に代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主げた、主構の鉛直度 δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。														
							主げた、主構の中心間距離 B (m)	±4…… B≤2 ±(3+B/2) ……B>2	各支点及び各支間中央付近を測定。												主げた、主構の中心間距離 B (m)	±4…… B≤2 ±(3+B/2) ……B>2	各支点及び各支間中央付近を測定。																	
							主構の組立高さ h (m)	±5…… h≤5 ±(2.5+h/2) …… h>5	—	両端部及び中心部を測定。											主構の組立高さ h (m)	±5…… h≤5 ±(2.5+h/2) …… h>5	—	両端部及び中心部を測定。																
							主げた、主構の通り δ (mm)	5+L/5…… L≤100 25…… L>100	最も外側の主げた又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L：測線上 (m)												主げた、主構の通り δ (mm)	5+L/5…… L≤100 25…… L>100	最も外側の主げた又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L：測線上 (m)																	
							主げた、主構のそり δ (mm)	-5～+5……L≤20 -5～+10…… 20<L≤40 -5～+15…… 40<L≤80 -5～+25…… 80<L≤200	各主げたについて10～12m間隔を測定。 L：主げたの支間長 (m)	各主構の各格点を測定。 L：主構の支間長 (m)											主げた、主構のそり δ (mm)	-5～+5……L≤20 -5～+10…… 20<L≤40 -5～+15…… 40<L≤80 -5～+25…… 80<L≤200	各主げたについて10～12m間隔を測定。 L：主げたの支間長 (m)	各主構の各格点を測定。 L：主構の支間長 (m)																
							主げた、主構の橋端における出入差 δ (mm)	設計値±10	どちらか一方の主げた（主構）端を測定。												主げた、主構の橋端における出入差 δ (mm)	設計値±10	どちらか一方の主げた（主構）端を測定。																	
							主げた、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を測定。 h：主げたの高さ (mm)	支点及び支間中央付近を測定。 h：主構の高さ (mm)											主げた、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を測定。 h：主げたの高さ (mm)	支点及び支間中央付近を測定。 h：主構の高さ (mm)																
							現場継手部のすき間 δ1, δ2 (mm)	設計値±5	主げた、主構の全継手数の1／2を測定。 δ1、δ2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合は、マイナスを認めない。												現場継手部のすき間 δ1, δ2 (mm)	設計値±5	主げた、主構の全継手数の1／2を測定。 δ1、δ2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。																	

出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度												平成23年度											
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	6		落橋防止装置製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	± 3… ℓ ≤10 ± 4… ℓ >10	図面の寸法表示箇所にて測定。			3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	6		落橋防止装置製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	± 3… ℓ ≤10 ± 4… ℓ >10	図面の寸法表示箇所にて測定。		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	7		橋梁用防護柵製作工	部 材	部 材 長 ℓ (m)	± 3… ℓ ≤10 ± 4… ℓ >10	図面の寸法表示箇所にて測定。			3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	7		橋梁用防護柵製作工	部 材	部 材 長 ℓ (m)	± 3… ℓ ≤10 ± 4… ℓ >10	図面の寸法表示箇所にて測定。		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	8		アンカーフレーム製作工	仮 組 立 時	上 面 水 平 度 δ ₁ (mm)	b / 500	軸心上全数測定。			3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	8		アンカーフレーム製作工	仮 組 立 時	上 面 水 平 度 δ ₁ (mm)	b / 500	軸心上全数測定。		
							鉛 直 度 δ ₂ (mm)	h / 500											鉛 直 度 δ ₂ (mm)	h / 500			
							高さ h (mm)	± 5											高さ h (mm)	± 5			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	9		プレビュー用桁製作工	部 材	フ ラ ン ジ 幅 w (m) 腹板高 h (m)	±2… w ≤0.5 ±3… 0.5<w ≤1.0 ±4… 1.0<w ≤2.0 ±(3+w/2)… 2.0<w	各支点及び各支間中央付近を測定。			3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	9		プレビュー用桁製作工	部 材	フ ラ ン ジ 幅 w (m) 腹板高 h (m)	±2… w ≤0.5 ±3… 0.5<w ≤1.0 ±4… 1.0<w ≤2.0 ±(3+w/2)… 2.0<w	各支点及び各支間中央付近を測定。		
							フランジの直角度 δ (mm)	w / 200	各支点及び各支間中央付近を測定。										フランジの直角度 δ (mm)	w / 200	各支点及び各支間中央付近を測定。		
							部材長 ℓ (m)	± 3… ℓ ≤10 ± 4… ℓ >10	原則として仮組立をしない部材について 主要部材全数で測定。										部材長 ℓ (m)	± 3… ℓ ≤10 ± 4… ℓ >10	原則として仮組立をしない部材について 主要部材全数で測定。		
						仮 組 立 時	主げたのそり	-5～+5 …L≤20 -5～+10 …20<L≤40	各主げたについて10～12m間隔を測定。									仮 組 立 時	主げたのそり δ	-5～+5 …L≤20 -5～+10 …20<L≤40	各主げたについて10～12m間隔を測定。		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	10		鋼製排水管製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	± 3… ℓ ≤10 ± 4… ℓ >10	図面の寸法表示箇所にて測定。			3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	10		鋼製排水管製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	± 3… ℓ ≤10 ± 4… ℓ >10	図面の寸法表示箇所にて測定。		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	11		工場塗装工	塗 膜 厚	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。 ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。		外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは、500㎡とする。 1 ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。			3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	11		工場塗装工	塗 膜 厚	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。 ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。		外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは、500㎡とする。 1 ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		

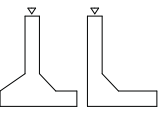
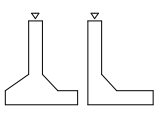
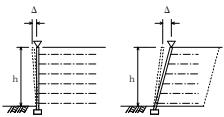
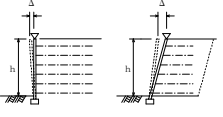
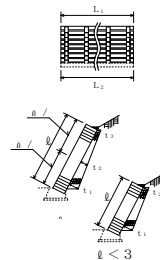
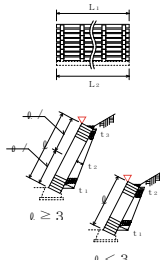
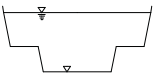
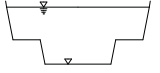
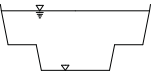
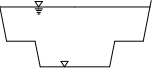
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度												平成23年度															
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要		
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	3		吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法 長 ℓ	ℓ < 3 m	-50	施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。				3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	3		吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	法 長 ℓ	ℓ < 3 m	-50	施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。					
							ℓ ≥ 3 m	-100												ℓ ≥ 3 m	-100						
						厚 さ t	t < 5 cm	-10	200㎡につき1箇所以上、200㎡以下は2箇所をせん孔により測定。										厚 さ t	t < 5 cm	-10	200㎡につき1箇所以上、200㎡以下は2箇所をせん孔により測定。					
							t ≥ 5 cm	-20												t ≥ 5 cm	-20						
							但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50％以上とし、平均厚は設計厚以上																			但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50％以上とし、平均厚は設計厚以上	
						延 長 L		-200	1施工箇所毎		延 長 L								-200	1施工箇所毎							
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法 長 ℓ	ℓ < 10m	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			曲線部は設計図書による	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法 長 ℓ	ℓ < 10m	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			曲線部は設計図書による		
							ℓ ≥ 10m	-200												ℓ ≥ 10m	-200						
						幅 w		-30	枠延長100mにつき1箇所、枠延長100m以下のものは1施工箇所につき2箇所。										幅 w		-30	枠延長100mにつき1箇所、枠延長100m以下のものは1施工箇所につき2箇所。					
						高 さ h		-30											高 さ h		-30						
						枠中心間隔 a		±100											枠中心間隔 a		±100						
						延 長 L		-200	1施工箇所毎		延 長 L								-200	1施工箇所毎							
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	4	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法 長 ℓ	ℓ < 10m	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。				3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	4	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法 長 ℓ	ℓ < 10m	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。					
							ℓ ≥ 10m	-200												ℓ ≥ 10m	-200						
						延 長 L		-200	1施工箇所毎		延 長 L								-200	1施工箇所毎							
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	6		アンカー工	削孔深さ ℓ	設計値以上		全数（任意仮設は除く）				3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	6		アンカー工	削孔深さ ℓ	設計値以上		全数（任意仮設は除く）					
						配置誤差 d	100												配置誤差 d	100							
						せん孔方向 θ	±2.5度												せん孔方向 θ	±2.5度						d = √(x² + y²)	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	15 擁 壁 工 共 通	1		(一般事項) 場所打擁壁工	基 準 高 ▽	±50		施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。				3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	15 擁 壁 工 共 通	1		(一般事項) 場所打擁壁工	基 準 高 ▽	±50		施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。					
						厚 さ t	-20												厚 さ t	-20							
						裏 込 厚 さ	-50												裏 込 厚 さ	-50							
						幅 w₁, w₂	-30												幅 w₁, w₂	-30							
						高 さ h	h < 3 m	-50											高 さ h	h < 3 m	-50						
							h ≥ 3 m	-100												h ≥ 3 m	-100						
						延 長 L		-200	1施工箇所毎		延 長 L								-200	1施工箇所毎							

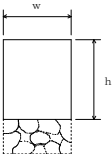
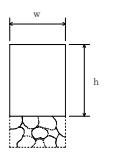
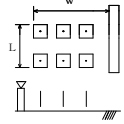
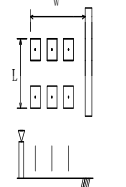
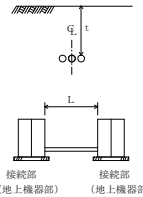
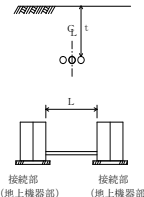
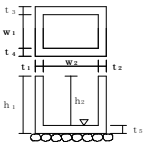
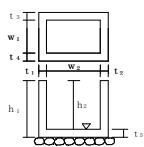
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度													平成23年度																																		
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値		測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値		測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要																				
3	土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	15 擁 壁 工 共 通	2		プレキャスト擁壁工	基 準 高 ▽		±50		施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3	土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	15 擁 壁 工 共 通	2		プレキャスト擁壁工	基 準 高 ▽		±50		施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。																						
							延 長 L		-200												1 施工箇所毎		延 長 L					-200		1 施工箇所毎																	
3	土 木 工 事 共 通 編	2 共 通 的 工 種	15 擁 壁 工 共 通	3		補強土壁工 （補強土（テールアルメ）壁工法） （多数アンカー式補強土工法） （ジオテキスタイルを用いた補強土工法）	基 準 高 ▽		±50		施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3	土 木 工 事 共 通 編	2 共 通 的 工 種	15 擁 壁 工 共 通	3		補強土壁工 （補強土（テールアルメ）壁工法） （多数アンカー式補強土工法） （ジオテキスタイルを用いた補強土工法）	基 準 高 ▽		±50		施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。																						
							高さ h	h < 3 m	-50												h < 3 m		-50																								
								h ≥ 3 m	-100												h ≥ 3 m		-100																								
							鉛 直 度 △		±0.03 h かつ ±300以内												鉛 直 度 △		±0.03 h かつ ±300以内																								
							控 え 長 さ		設計値以上												控 え 長 さ		設計値以上																								
							延 長 L		-200		1 施工箇所毎										延 長 L		-200		1 施工箇所毎																						
3	土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	15 擁 壁 工 共 通	4		井桁ブロック工	基 準 高 ▽		±50		施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3	土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	15 擁 壁 工 共 通	4		井桁ブロック工	基 準 高 ▽		±50		施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。																						
							法長 ℓ	高さ h < 3 m	-50												ℓ < 3 m		-50																								
								高さ h ≥ 3 m	-100												ℓ ≥ 3 m		-100																								
							厚さ t ₁ , t ₂ , t ₃		-50												厚さ t ₁ , t ₂ , t ₃		-50																								
							延 長 L ₁ , L ₂		-200		1 施工箇所毎										延 長 L ₁ , L ₂		-200		1 施工箇所毎																						
3	土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	16 浚 渫 工 共 通	1	1	浚渫船運転工 （ポンプ浚渫船）			上限	下限	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。			3	土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	16 浚 渫 工 共 通	3	1	浚渫船運転工 （ポンプ浚渫船）			上限	下限	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。																						
							基準高▽ 電気船	200ps	200	-800											200ps	+200	-800																								
								500ps	200	-1000											500ps	+200	-1000																								
								1000ps	200	-1200											1000ps	+200	-1200																								
							ディーゼル船	250ps	200	-800											250ps	+200	-800																								
								420ps 600ps	200	-1000											420ps 600ps	+200	-1000																								
								1350ps	200	-1200											1350ps	+200	-1200																								
							幅		-200												幅		-200																								
							延 長														-200											延 長		-200													
							3	土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	16 浚 渫 工 共 通	1										2	浚渫船運転工 （グラフ船）	基 準 高 ▽		上限 +200			延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。			3	土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	16 浚 渫 工 共 通	3	2	浚渫船運転工 （グラフ浚渫船）	基 準 高 ▽		上限 +200		延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。					
幅		-200											幅		-200																																
延 長		-200											延 長		-200																																

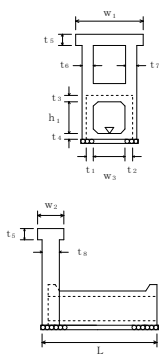
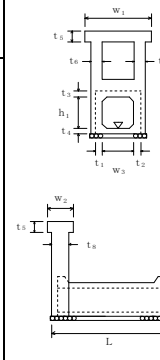
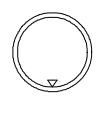
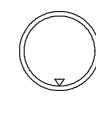
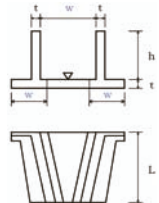
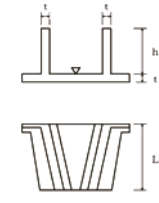
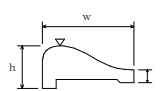
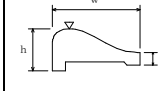
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度											平成23年度										
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	18 床版工	1		床版・横組工	基 準 高 ▽	±20	基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で、1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅は 1 径間当たり 3 箇所、厚さは型枠設置時におおむね10mに 1 箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)			3 土木工事共通編	2 一般施工	18 床版工	2		床版工	基 準 高 ▽	±20	基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で、1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅は 1 径間当たり 3 箇所、厚さは型枠設置時におおむね10mに 1 箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)		
						幅 w	0～+30										幅 w	0～+30			
						厚 さ t	－10～+20										厚 さ t	－10～+20			
						鉄筋のかぶり	設計値以上	1 径間当たり 3 断面（両端及び中央）測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1 箇所とする。									鉄筋のかぶり	設計値以上	1 径間当たり 3 断面（両端及び中央）測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1 箇所とする。		
						鉄筋の有効高さ	±10										鉄筋の有効高さ	±10			
						鉄 筋 間 隔	±20										1 径間当たり 3 箇所（両端及び中央）測定。 1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2 m の範囲を測定。	鉄 筋 間 隔			
上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10	上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10																		
6 土木工事共通編	1 一般施工	7 共通的工種	4		護岸付属物工	幅 w	-30	各格子間の中央部 1 箇所を測定。			6 河川編	1 築堤・護岸工	7 法覆護岸工	4		護岸付属物工	幅 w	-30			
						高 さ h	-30										高 さ h	-30			
6 河川編	1 築堤・護岸	10 水制工	8		杭出し水制工	基 準 高 ▽	±50	1 組毎			6 河川編	1 築堤・護岸	10 水制工	8		杭出し水制工	基 準 高 ▽	±50	1 組毎		
						幅 w	±300										幅 w	±300			
						方 向	± 7°										方 向	± 7°			
						延 長 L	-200										延 長 L	-200			
6 河川編	1 築堤・護岸	13 光ケーブル配管工	3		配管工	埋 設 深 t	0～+50	接続部（地上機器部）間毎に 1 箇所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】			6 河川編	1 築堤・護岸	13 光ケーブル配管工	3		配管工	埋 設 深 t	0～+50	接続部（地上機器部）間毎に 1 箇所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】		
						延 長 L	-200										延 長 L	-200			
6 河川編	1 築堤・護岸	13 光ケーブル配管工	4		ハンドホール工	基 準 高 ▽	±30	1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合			6 河川編	1 築堤・護岸	13 光ケーブル配管工	4		ハンドホール工	基 準 高 ▽	±30	1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合		
						※厚さ t ₁ ～t ₅	-20										※厚さ t ₁ ～t ₅	-20			
						※幅 w ₁ , w ₂	-30										※幅 w ₁ , w ₂	-30			
						※高さ h ₁ , h ₂	-30										※高さ h ₁ , h ₂	-30			

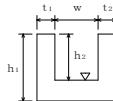
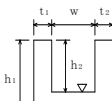
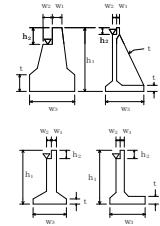
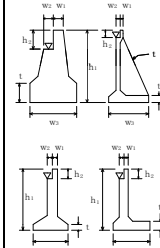
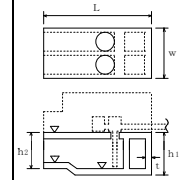
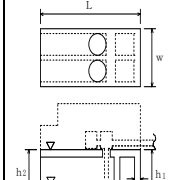
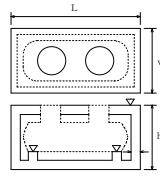
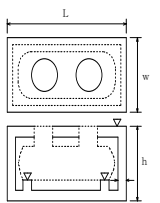
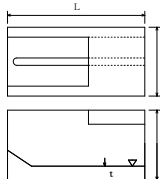
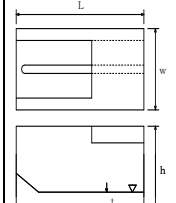
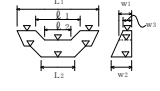
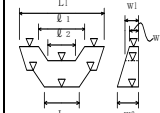
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度											平成23年度												
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
6 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	6	1	両渠工 (本体工)	基 準 高 ▽	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前（載荷前）に測定する。			6 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	6	1	両渠工 (本体工)	基 準 高 ▽	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前（載荷前）に測定する。				
						厚 さ $t_1 \sim t_8$	-20										厚 さ $t_1 \sim t_8$	-20					
						幅 w_1, w_2	-30										幅 w_1, w_2	-30					
						内空幅 w_3	-30										内空幅 w_3	-30					
						内空高 h_1	±30										内空高 h_1	±30					
						延 長 L	-200										延 長 L	-200					
6 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	6	2	両渠工 (ヒューム管) (P C管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			6 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	6	2	両渠工 (ヒューム管) (P C管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
						延 長 L	-200										延 長 L	-200					
6 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	7 8		翼壁工 水叩工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所で測定。			6 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	7 8		翼壁工 水叩工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所で測定。				
						厚 さ t	-20										厚 さ t	-20					
						幅 w	-30										幅 w	-30					
						高 さ h	±30										高 さ h	±30					
						延 長 L	-50										延 長 L	-50					
6 河川 編	4 水 門	6 水 門 本 体 工	7 8 9 10 11		床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所で測定。			6 河川 編	4 水 門	6 水 門 本 体 工	7 8 9 10 11		床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所で測定。				
						厚 さ t	-20										厚 さ t	-20					
						幅 w	-30										幅 w	-30					
						高 さ h	±30										高 さ h	±30					
						延 長 L	-50										延 長 L	-50					
6 河川 編	5 堰	6 可動堰 本 体 工	13 14		開門工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所で測定。			6 河川 編	5 堰	6 可動堰 本 体 工	13 14		開門工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所で測定。				
						厚 さ t	-20										厚 さ t	-20					
						幅 w	-30										幅 w	-30					
						高 さ h	±30										高 さ h	±30					
						延 長 L	-50										延 長 L	-50					
6 河川 編	5 堰	7 固定堰 本 体 工	8 9 10		堰本体工 水叩工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30	基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手箇所及び構造図の寸法表示箇所で測定。			6 河川 編	5 堰	7 固定堰 本 体 工	8 9 10		堰本体工 水叩工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30	基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手箇所及び構造図の寸法表示箇所で測定。				
						厚 さ t	-20										厚 さ t	-20					
						幅 w	-30										幅 w	-30					
						高 さ h	±30										高 さ h	±30					
						堰 長 L	$L < 20\text{m}$										-50	堰 長 L				$L < 20\text{m}$	-50
							$L \geq 20\text{m}$										-100					$L \geq 20\text{m}$	-100

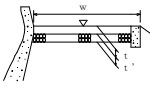
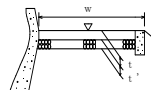
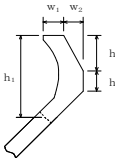
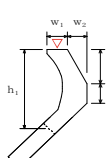
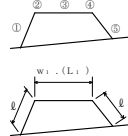
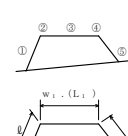
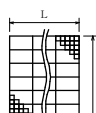
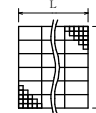
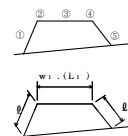
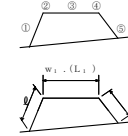
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度											平成23年度										
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 河川 編	5 堰	8 魚道工	3		魚道本体工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。（なお、製品使用の場合の製品寸法は、規格証明書等による）			6 河川 編	5 堰	8 魚道工	3		魚道本体工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚 さ t ₁ , t ₂	-20										厚 さ t ₁ , t ₂	-20			
						幅 w	-30										幅 w	-30			
						高 さ h ₁ , h ₂	-30										高 さ h ₁ , h ₂	-30			
						延 長 L	-200										延 長 L	-200			
6 河川 編	5 堰	9 管理橋下部工	2		管理橋橋台工	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は図面の寸法表示箇所で測定。			6 河川 編	5 堰	9 管理橋下部工	2		管理橋橋台工	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は図面の寸法表示箇所で測定。		
						厚 さ t	-20										厚 さ t	-20			
						天 端 幅 w ₁ （橋軸方向）	-10										天 端 幅 w ₁ （橋軸方向）	-10			
						天 端 幅 w ₂ （橋軸方向）	-10										天 端 幅 w ₂ （橋軸方向）	-10			
						敷 幅 w ₃ （橋軸方向）	-50										敷 幅 w ₃ （橋軸方向）	-50			
						高 さ h ₁	-50										高 さ h ₁	-50			
						胸壁の高さ h ₂	-30										胸壁の高さ h ₂	-30			
						天 端 長 ℓ ₁	-50										天 端 長 ℓ ₁	-50			
						敷 長 ℓ ₂	-50										敷 長 ℓ ₂	-50			
						胸壁間距離 ℓ	±30										胸壁間距離 ℓ	±30			
						支 点 長 及 び 中心線の変 化	±50										支 点 長 及 び 中心線の変 化	±50			
6 河川 編	6 排水 機場	4 機場 本体工	6		本体工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。			6 河川 編	6 排水 機場	4 機場 本体工	6		本体工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。		
						厚 さ t	-20										厚 さ t	-20			
						幅 w	-30										幅 w	-30			
						高 さ h ₁ , h ₂	±30										高 さ h ₁ , h ₂	±30			
						延 長 L	-50										延 長 L	-50			
6 河川 編	6 排水 機場	4 機場 本体工	7		燃料貯油槽工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。			6 河川 編	6 排水 機場	4 機場 本体工	7		燃料貯油槽工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。		
						厚 さ t	-20										厚 さ t	-20			
						幅 w	-30										幅 w	-30			
						高 さ h	±30										高 さ h	±30			
						延 長 L	-50										延 長 L	-50			
6 河川 編	6 排水 機場	5 沈砂 池工	7		コンクリート床版工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。			6 河川 編	6 排水 機場	5 沈砂 池工	7		コンクリート床版工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。		
						厚 さ t	-20										厚 さ t	-20			
						幅 w	-30										幅 w	-30			
						高 さ h	±30										高 さ h	±30			
						延 長 L	-50										延 長 L	-50			
6 河川 編	7 床止め・ 床固め	4 床止め工	6		本体工 （床固め本体工）	基 準 高 ▽	±30	図面に表示してある箇所で測定。			6 河川 編	7 床止め・ 床固め	4 床止め工	6		本体工 （床固め本体工）	基 準 高 ▽	±30	図面に表示してある箇所で測定。		
						天 端 幅 w ₁	-30										天 端 幅 w ₁ , w ₃	-30			
						堤 幅 w ₂	-30										堤 幅 w ₂	-30			
						堤 長 L ₁ , L ₂	-100										堤 長 L ₁ , L ₂	-100			
						水通し幅 ℓ ₁ , ℓ ₂	±50										水通し幅 ℓ ₁ , ℓ ₂	±50			

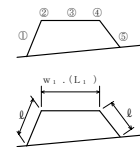
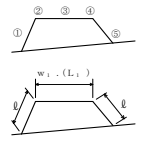
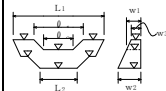
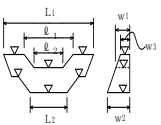
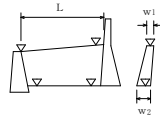
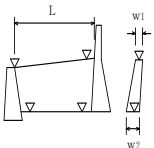
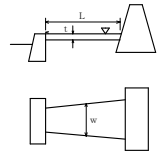
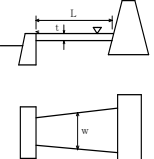
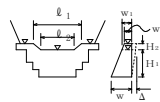
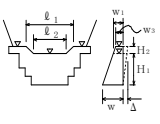
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度											平成23年度																				
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所		摘 要		編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所		摘 要			
7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	8 天端被覆工	2		コンクリート被覆工	基 準 高 ▽		±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。						7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	8 天端被覆工	2		コンクリート被覆工	基 準 高 ▽		±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。							
						幅 w		-50																							
						厚 さ t		-10																							
						基 礎 厚 t'		-45																							
						延 長 L		-200																							
7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	9 波返工	3		波返工	基 準 高 ▽		±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。						7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	9 波返工	3		波返工	基 準 高 ▽		±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。							
						幅 w ₁ , w ₂		-30																							
						高さ h<3m h ₁ , h ₂ , h ₃		-50																							
						高さ h≧3m h ₁ , h ₂ , h ₃		-100																							
						延 長 L		-200																							
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	4 突堤基礎工	4		捨石工	基準高▽	本 均 し		±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。						7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	4 突堤基礎工	4		捨石工	基準高▽	本 均 し		±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。					
							表 面 均 し		±100																						
							荒均し	異形ブロック据付面（乱積）の高さ															±500	±500							
								異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ															±300	±300							
							被覆均し	異形ブロック据付面（乱積）の高さ															±500	±500							
						異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ		±300	±300																						
						法 長 ℓ		-100	幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。										-100												
						天 端 幅 w ₁		-100											-100												
						天 端 延 長 L ₁		-200											-200												
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	4 突堤基礎工	5		吸出し防止工	幅 w		-300	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。						7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	4 突堤基礎工	5		吸出し防止工	幅 w		-300	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。							
						延 長 L		-500																							
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本体工	2		捨石工	基準高▽	異形ブロック据付面（乱積）の高さ		±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。						7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本体工	2		捨石工	基準高▽	異形ブロック据付面（乱積）の高さ		±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。					
							異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ		±300														±300								
						法 長 ℓ		-100	幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。										-100												
						天 端 幅 w ₁		-100											-100												
						天 端 延 長 L ₁		-200											-200												

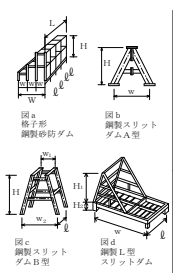
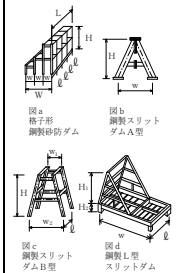
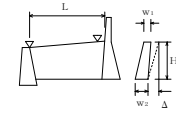
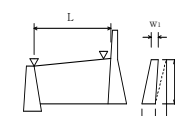
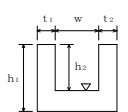
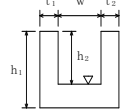
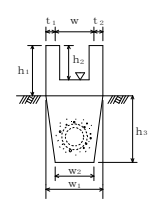
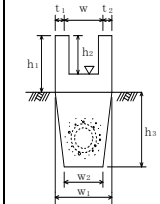
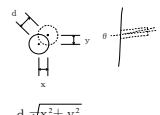
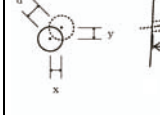
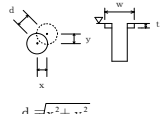
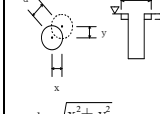
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度												平成23年度																						
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要									
7 河川 海岸 編	3 海城堤防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	3 海城堤基礎工	3		捨石工	基準高▽	本 均 し	±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。				7 河川 海岸 編	3 海城堤防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	3 海城堤基礎工	3		捨石工	基準高▽	本 均 し	±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。												
							荒均し	異形ブロック据付面(乱積)の高さ												±500	異形ブロック据付面(乱積)の高さ					±500								
								異形ブロック据付面(乱積)以外の高さ												±300	異形ブロック据付面(乱積)以外の高さ					±300								
								被覆均し												異形ブロック据付面(乱積)の高さ	±500					異形ブロック据付面(乱積)の高さ	±500							
							異形ブロック据付面(乱積)以外の高さ													±300	異形ブロック据付面(乱積)以外の高さ					±300								
						法 長 ℓ		−100											幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所、延長はセンターライン及び表裏法所。	法 長 ℓ						−100	幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所、延長はセンターライン及び表裏法所。	天 端 幅 w1		−100	幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所、延長はセンターライン及び表裏法所。	天 端 延 長 L1		−200
						天 端 幅 w1		−100												天 端 延 長 L1						−200								
						天 端 延 長 L1		−200																										
8 砂防 編	1 砂防堰堤	3 工場製作工	4		鋼製堰堤仮設材製作工	部材	部材長 ℓ（m）	±3…ℓ ≤10 ±4…ℓ >10	図面の寸法表示箇所で測定。				8 砂防 編	1 砂防堰堤	3 工場製作工	4		鋼製堰堤仮設材製作工	部材	部材長 ℓ（m）	±3…ℓ ≤10 ±4…ℓ >10	図面の寸法表示箇所で測定。												
8 砂防 編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	4		コンクリート堰堤本体工	基準高▽	±30	図面の表示箇所で測定。				8 砂防 編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	4		コンクリート堰堤本体工	基準高▽	±30	図面の表示箇所で測定。														
							天端部 堤 幅 w1, w3 w2												−30						天端部 堤 幅 w1, w3 w2	−30								
							水通しの幅 ℓ1, ℓ2												±50						水通しの幅 ℓ1, ℓ2	±50								
							堤 長 L1, L2												−100						堤 長 L1, L2	−100								
8 砂防 編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	6		コンクリート側壁工	基準高▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。				8 砂防 編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	6		コンクリート側壁工	基準高▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。														
							幅 w1, w2												−30						幅 w1, w2	−30								
							長 さ L												−100						長 さ L	−100								
8 砂防 編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	8		水叩工	基準高▽	±30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。				8 砂防 編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	8		水叩工	基準高▽	±30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。														
							幅 w												−100						幅 w	−100								
							厚 さ t												−30						厚 さ t	−30								
							延 長 L												−100						延 長 L	−100								
8 砂防 編	1 砂防堰堤	9 鋼製堰堤工	5	1	鋼製堰堤本体工（不透過型）	水通し部	堤 高 ▽	±50	1. 図面の表示箇所で測定する。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。			8 砂防 編	1 砂防堰堤	9 鋼製堰堤工	5	1	鋼製堰堤本体工（不透過型）	水通し部	堤 高 ▽	±50	1. 図面の表示箇所で測定する。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。													
							長 さ ℓ1, ℓ2	±100											長 さ ℓ1, ℓ2	±100														
							幅 w1, w3	±50											幅 w1, w3	±50														
							下流側倒れ Δ	±0.02H1											下流側倒れ Δ	±0.02H1														
						袖部	袖 高 ▽	±50										袖 高 ▽	±50															
							幅 w2	±50											幅 w2	±50														
							下流側倒れ Δ	±0.02H2												下流側倒れ Δ					±0.02H2									

出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度										平成23年度											
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8 砂 防 編	1 砂 防 堰 堤	9 鋼 製 堰 堤 工	5	2	鋼製堰堤本体工 (透過型)	堤長 L 格	±50	(備考) 格：格子型鋼製砂防ダム A：鋼製スリットダム A型 B：鋼製スリットダム B型 L：鋼製スリットダム L型			8 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	9 鋼 製 え ん 堤 工	5	2	鋼製えん堤本体工 (透過型)	堤長 L 格	±50	(備考) 格：格子型鋼製砂防ダム A：鋼製スリットダム A型 B：鋼製スリットダム B型 L：鋼製スリットダム L型		
						堤長 ℓ 格・B・L	±10														
						堤幅W 格	±30														
						堤幅w 格・B・L	±10														
						堤幅w A	±5														
						高さH 格・B・L	±10														
						高さH A	±5														
8 砂 防 編	1 砂 防 堰 堤	9 鉄 製 堰 堤 工	6		鋼製側壁工	堤 高 ▽	±50	1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。			8 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	9 鉄 製 え ん 堤 工	6		鋼製側壁工	堤 高 ▽	±50	1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		
						長 さ L	±100														
						幅 w ₁ , w ₂	±50														
						下流側倒れ Δ	±0.02H														
						高さ h	h < 3 m										-50				
							h ≥ 3 m										-100				
8 砂 防 編	2 流 路	5 床 固 め 工	8		魚道工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。なお、製品使用の場合は、製品寸法については規格証明書等による。			8 砂 防 編	2 流 路	5 床 固 め 工	8		魚道工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						幅 w	-30														
						高 さ h ₁ , h ₂	-30														
						厚 さ t ₁ , t ₂	-20														
						延 長 L	-200														
8 砂 防 編	3 斜 面 対 策	6 山 腹 水 路 工	4		山腹明暗渠工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。（なお製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による）			8 砂 防 編	3 斜 面 対 策	6 山 腹 水 路 工	4		山腹明暗渠工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚さ t ₁ , t ₂	-20														
						幅 w	-30														
						幅 w ₁ , w ₂	-50														
						高さ h ₁ , h ₂	-30														
						深 さ h ₃	-30														
						延 長 L	-200														
8 砂 防 編	3 斜 面 対 策	7 地 下 水 排 除 工	4		集排水ボーリング工	削 孔 深 さ ℓ	設計値以上	全数			8 砂 防 編	3 斜 面 対 策	7 地 下 水 排 除 工	4		集排水ボーリング工	削 孔 深 さ ℓ	設計値以上	全数		
						配 置 誤 差 d	100														
						せん孔方向 θ	±2.5度														
8 砂 防 編	3 斜 面 対 策	7 地 下 水 排 除 工	5		集水井工	基 準 高 ▽	±50	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。			8 砂 防 編	3 斜 面 対 策	7 地 下 水 排 除 工	5		集水井工	基 準 高 ▽	±50	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。		
						偏 心 量 d	150														
						長 さ L	-100														
						巻 立 て 幅 w	-50														
						巻立て厚さ t	-30														

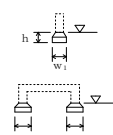
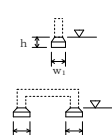
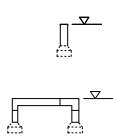
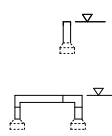
出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

單位：mm

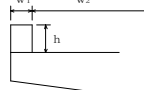
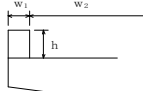
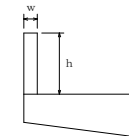
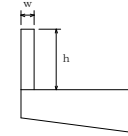
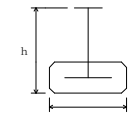
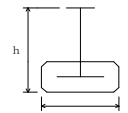
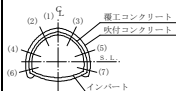
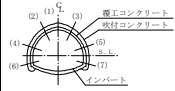
平成21年度											平成23年度															
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
9 ダ ム 編	1 コ ン ク リ ー ト ダ ム	4 ダ ム コ ン ク リ ー ト 工			コンクリートダム工 (導流壁)	天 端 高 ▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所 で測定。 2. 上記以外の測定箇所 は、下記を標準とする。 ①天端高、天端幅は、各測 点、又はジョイントごと に測定。 ②リフト高、厚さは、各 測点、又はジョイントに ついて3リフトごとに測 定。 (注) リフト高、厚さの 測定は、前面、背面型 枠設置後からとする。 なお、リフト高、厚さ の測定箇所は、前面背 面型枠と水平打継目の 接触部とする。 ③長さは、天端中心線 の水平延長又は、測点 に直角な水平延長を測 定。			9 ダ ム 編	1 コ ン ク リ ー ト ダ ム	4 ダ ム コ ン ク リ ー ト 工			コンクリートダム工 (導流壁)	天 端 高 ▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所 で測定。 2. 上記以外の測定箇所 は、下記を標準とする。 ①天端高、天端幅は、各測 点、又はジョイントごと に測定。 ②リフト高、厚さは、各 測点、又はジョイントに ついて3リフトごとに測 定。 (注) リフト高、厚さの 測定は、前面、背面型 枠設置後からとする。 なお、リフト高、厚さ の測定箇所は、前面背 面型枠と水平打継目の 接触部とする。 ③長さは、天端中心線 の水平延長又は、測点 に直角な水平延長を測 定。							
						ジョイント間隔	±20																			
						リ フ ト 高	±50																			
						長 さ	±100																			
						厚 さ	±20																			
9 ダ ム 編	2 フ ィ ル ダ ム	3 盛 立 工	5		コアの盛立	基 準 高 ▽	-0	各測点について5層毎 に測定。 ※外側境界線は標準機 種（タンピングローラ） の場合			9 ダ ム 編	2 フ ィ ル ダ ム	3 盛 立 工	5		コアの盛立	基 準 高 ▽	設計値以上	各測点について5層毎 に測定。 ※外側境界線は標準機 種（タンピングローラ） の場合							
						外 側 境 界 線	-0, +500										外 側 境 界 線	-0, +500								
9 ダ ム 編	2 フ ィ ル ダ ム	3 盛 立 工	6		フィルターの盛立	基 準 高 ▽	-0	各測点について5層毎 に測定。			9 ダ ム 編	2 フ ィ ル ダ ム	3 盛 立 工	6		フィルターの盛立	基 準 高 ▽	-0	各測点について5層毎 に測定。							
						外 側 境 界 線	-0, +1000										外 側 境 界 線	-0, +1000								
						盛 立 幅	-0, +1000										盛 立 幅	-0, +1000								
9 ダ ム 編	2 フ ィ ル ダ ム	3 盛 立 工	7		ロックの盛立	基 準 高 ▽	-100	各測点について盛立5 m毎に測定。			9 ダ ム 編	2 フ ィ ル ダ ム	3 盛 立 工	7		ロックの盛立	基 準 高 ▽	-100	各測点について盛立5 m毎に測定。							
						外 側 境 界 線	-0, +2000										外 側 境 界 線	-0, +2000								
9 ダ ム 編	2 フ ィ ル ダ ム				フィルダム (洪水吐)	基 準 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所 で測定。 2. 1回/1施工箇所				9 ダ ム 編	2 フ ィ ル ダ ム				フィルダム (洪水吐)	基 準 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所 で測定。 2. 1回/1施工箇所						
						ジョイント間隔	±30											ジョイント間隔	±30							
						厚 さ t	±20											厚 さ t	±20							
						幅 w	±40											幅 w	±40							
						リ フ ト 高 さ	±20											リ フ ト 高 さ	±20							
						長 さ L	±100											長 さ L	±100							
9 ダ ム 編	3 基 礎 グ ラ ウ チ ン グ	3 ボ ー リ ン グ 工			ボーリング工	深 度 L	設計値以上	ボーリング工毎 ※配置位置の規定はコ ンクリート面で行うカ ーテングラウトに適用 する。				9 ダ ム 編	3 基 礎 グ ラ ウ チ ン グ	3 ボ ー リ ン グ 工			ボーリング工	深 度 L	設計値以上	ボーリング工毎 ※配置位置の規定はコ ンクリート面で行うカ ーテングラウトに適用 する。						
						配 置 誤 差	100											配 置 誤 差	100							
10 道 路 編	1 道 路 改 良	3 工 場 製 作 工	2		遮音壁支柱製作工	部材	部材長 ℓ (m)	±3…ℓ ≤10 ±4…ℓ >10	図面の寸法表示箇所 で測定。			10 道 路 編	1 道 路 改 良	3 工 場 製 作 工	2		遮音壁支柱製作工	部材	部材長 ℓ (m)	±3…ℓ ≤10 ±4…ℓ >10	図面の寸法表示箇所 で測定。					
10 道 路 編	1 道 路 改 良	9 カ ル バ ー ト 工	6		場所打函渠工	基 準 高 ▽	±30	両端、施工継手及び図 面の寸法表示箇所 で測定。				10 道 路 編	1 道 路 改 良	9 カ ル バ ー ト 工	6		場所打函渠工	基 準 高 ▽	±30	両端、施工継手及び図 面の寸法表示箇所 で測定。						
						厚さ t1～t4	-20											厚さ t1～t4	-20							
						幅 (内法) w	-30											幅 (内法) w	-30							
						高 さ h	±30											高 さ h	±30							
						延長 L	L < 20m											-50	延長 L						L < 20m	-50
							L ≥ 20m											-100							L ≥ 20m	-100

出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

単位：mm

平成21年度												平成23年度																							
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要												
10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製橋脚 工	9	2	橋脚フーチング工（門型）	基 準 高 ▽		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。			10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製橋脚 工	9	2	橋脚フーチング工（門型）	基 準 高 ▽		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。														
						幅 w ₁ , w ₂		-50										幅 w ₁ , w ₂		-50															
						高 さ h		-50										高 さ h		-50															
10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製橋脚 工	10	1	橋脚架設工（1型・T型）	基 準 高 ▽		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。			10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製橋脚 工	10	1	橋脚架設工（1型・T型）	基 準 高 ▽		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。														
						橋脚中心間距離 ℓ		±30										橋脚中心間距離 ℓ		±30															
						支 間 長 及 び 中心線の変位		±50										支 間 長 及 び 中心線の変位		±50															
10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製橋脚 工	10	2	橋脚架設工（門型）	基 準 高 ▽		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。			10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製橋脚 工	10	2	橋脚架設工（門型）	基 準 高 ▽		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。														
						橋脚中心間距離 ℓ		±30										橋脚中心間距離 ℓ		±30															
						支 間 長 及 び 中心線の変位		±50										支 間 長 及 び 中心線の変位		±50															
10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製橋脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ ₁ , δ ₂ (mm)		5 ※±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。			10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製橋脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ ₁ , δ ₂ (mm)		5 ※±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合														
10 道路 編	4 鋼橋 上部	3 工場製作 工	9		橋梁用高欄製作工	部材	部材長 ℓ (m)	±3…… ℓ ≤10 ±4…… ℓ >10	図面の寸法表示箇所で測定。			10 道路 編	4 鋼橋 上部	3 工場製作 工	9		橋梁用高欄製作工	部材	部材長 ℓ (m)	±3…… ℓ ≤10 ±4…… ℓ >10	図面の寸法表示箇所で測定。														
10 土木 工事 共通 編	4 一般 施工	5 共通の工 種	10	1	支承工（鋼製支承）	据付け高さ 注1)		±5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能性が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。			10 道路 編	4 鋼橋 上部	5 鋼橋架設工	10	1	支承工（鋼製支承）	据付け高さ 注1)		±5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能性が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。														
						可動支承の移動可能性 注2)		設計移動量 +10以上										可動支承の移動可能性 注2)		設計移動量 +10以上															
						支承中心間隔（橋軸直角方向）		±5										4+0.5 × (B-2)	支承中心間隔（橋軸直角方向）					±5	4+0.5 × (B-2)										
						下 査 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 100											橋軸方向	1 / 100															
							橋軸直角方向	橋軸直角方向																											
						可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差		5										可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差		5															
						可動支承の移動量 注3)		温度変化に伴う移動量 計算値の1/2以上										可動支承の移動量 注3)		温度変化に伴う移動量 計算値の1/2以上															
10 土木 工事 共通 編	4 一般 施工	5 共通の工 種	10	2	支承工（ゴム支承）	据付け高さ 注1)		±5	支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能性が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。			10 道路 編	4 鋼橋 上部	5 鋼橋架設工	10	2	支承工（ゴム支承）	据付け高さ 注1)		±5	支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能性が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。														
						可動支承の移動可能性 注2)		設計移動量 +10以上										可動支承の移動可能性 注2)		設計移動量 +10以上															
						支承中心間隔（橋軸直角方向）		±5										4+0.5 × (B-2)	支承中心間隔（橋軸直角方向）					±5	4+0.5 × (B-2)										
						支 承 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 300											橋軸方向	1 / 300															
							橋軸直角方向	橋軸直角方向																											
						可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差		5										可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差		5															
						可動支承の移動量 注3)		温度変化に伴う移動量 計算値の1/2以上										可動支承の移動量 注3)		温度変化に伴う移動量 計算値の1/2以上															

出来形管理基準及び規格値 新旧対照表

平成21年度											平成23年度										
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	4 上 部 工	8 橋 梁 付 属 物 工	3			アンカーボルト孔の削孔長	設計値以上	全数測定			10 道 路 編	4 銅 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	3			アンカーボルト孔の削孔長	設計値以上	全数測定		
						アンカーボルト定着長	－20以内 かつ －1D以内	全数測定 D：アンカーボルト径（mm）									アンカーボルト定着長	－20以内 かつ －1D以内	全数測定 D：アンカーボルト径（mm）		
10 土 木 工 事 共 通 編	4 一 般 施 工	8 共 通 的 工 種	1		地覆工	地覆の幅 w_1	－10～＋20	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。			10 道 路 編	4 銅 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	5		地覆工	地覆の幅 w_1	－10～＋20	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
						地覆の高さ h	－10～＋20										地覆の高さ h	－10～＋20			
						有効幅員 w_2	0～＋30										有効幅員 w_2	0～＋30			
10 土 木 工 事 共 通 編	4 一 般 施 工	8 共 通 的 工 種	6 7		橋梁用防護柵工	幅 w	－5～＋10	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。			10 道 路 編	4 銅 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 w	－5～＋10	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
						高 さ h	－20～＋30										高 さ h	－20～＋30			
10 土 木 工 事 共 通 編	4 一 般 施 工	8 共 通 的 工 種	8		検査路工	幅	±3	1ブロックを抽出して測定。			10 道 路 編	4 銅 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	8		検査路工	幅	±3	1ブロックを抽出して測定。		
						高 さ	±4										高 さ	±4			
10 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	6 プ レ ビ ー ム 桁 橋 工	2		プレビーム桁製作工（現場）	幅 w	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ：スパン長			10 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	6 プ レ ビ ー ム 桁 橋 工	2		プレビーム桁製作工（現場）	幅 w	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ：スパン長		
						高 さ h	+10 -5										高 さ h	10 -5			
						桁 長 ℓ スパン長	ℓ<15…… ±10 ℓ≥15…… ±(ℓ－5) かつ－30mm以内										桁 長 ℓ スパン長	ℓ<15…… ±10 ℓ≥15…… ±(ℓ－5) かつ－30mm以内			
						横方向最大タワミ	0.8 ℓ										横方向最大タワミ	0.8 ℓ			
10 道 路 編	6 ト ン ネ ル （ N A T M ）	4 支 保 工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1／3以上を確保するものとする。	施工延長40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準（構造編）にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。			10 道 路 編	6 ト ン ネ ル （ N A T M ）	4 支 保 工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1／3以上を確保するものとする。	施工延長40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準（構造編）にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。		
10 道 路 編	6 ト ン ネ ル （ N A T M ）	4 支 保 工	4		ロックボルト工	位 置 間 隔	—	施工延長40m毎に断面全本数検測。			10 道 路 編	6 ト ン ネ ル （ N A T M ）	4 支 保 工	4		ロックボルト工	位 置 間 隔	—	施工延長40m毎に断面全本数検測。		
						角 度	—										角 度	—			
						削 孔 深 さ	—										削 孔 深 さ	—			
						孔 径	—										孔 径	—			
						突 出 量	プレート下面から10cm以内										突 出 量	プレート下面から10cm以内			

単位：mm

